

状況を多面的・多角的に分析することを通して、
よりよい判断や行為の在り方を主体的に考える授業

熊谷 友良

1 主題名 命に向き合う

2 内容項目

D-19 生命の尊さ

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること

C-14 家族愛、家庭生活の充実

父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと

3 教材名

第1時 - 『私は“今”死んでも幸せ。だからこそ死ねない』

※ 引用文献：山下弘子「雨上がりに咲く向日葵のように」宝島社

Aflac HP 「がんと共に生きる 体験談」

第2時 - 『命の選択』（きみが いちばん ひかるとき 中学道徳③ 光村図書）

第3時 - 『父の命』（授業者自作資料）

4 目 標

- 「命の大切さ」の価値の理解の基、患者本人の立場、残された家族の立場などから、教材や資料の状況を多面的・多角的に分析し、家族の一員としてどのように行動するかの根拠を仲間と交流する活動を通して、「命を大切にすること」の自身の考えを新たにすることができる。

5 本教材で学習する意義

(1) ねらいとする道徳的価値について

近年、「安楽死」や「尊厳死」という言葉がメディア等で話題に上がることが多くなってきた。「尊厳死」は、法制化はされていないものの厚生労働省からガイドラインが示されており、「尊厳死」を医療現場で認めることは以前にも増して多くなってきている。

人間の生命は大切である。生徒にとっては当たり前で分かりきったことである。このことは、多くの生徒にとって観念的な理解にとどまっていることであろう。なぜならば、中学生の時期は、比較的健康的に毎日が過ごせる場合が多いため、自己の生命に対する有り難みを感じる生徒は決して多いとは言えない。身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさに心を揺り動かされたりする経験をもつことが少なくなっている。しかしながら、上述の通り、今後生きていく中で、家族の命の選択を迫られる場面に遭遇することは珍しいことではない。自分の家族が不治で末期の状態であった場合、「患者を苦しませないために

も尊厳死を認めるのか」「命は尊いものであるから延命措置を依頼するのか」といった選択は、医学が発達した現代において、いろいろな方法で延命できるようになった分、家族が本人に代わって選択を迫られる事例も多くなってきているのである。

今回の教材で扱う内容項目はD-19「生命の尊さ」である。新学習指導要領では、「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。」と要点が示されている。命について学ぶことは自分を大切にすることにもつながる。自分の命は自分のものだけではない。家族に愛情を注がれて今の自分の命は存在する。それに気付くことは、家族や仲間など他者の存在を慈しむことにもつながる。中学生3年生のこの時期は、何かと家族、特に両親には反抗的になりがちな時期である。この時期に、命について考えることは、自分自身をより大切に生きていこうとするこれからの前向きな気持ちや、家族について自身のかかわり方を見直すきっかけにつながるのである。また、ひいては生命軽視の軽はずみな言動を許さない心、いじめなどの社会的な問題を解決する一助となる。

(2) 生徒の実態と教材について

当学級の生徒の実態として、自分の思いや願いは主張するが、相手の立場で物事を考えたり、周囲の状況に思いを巡らしたりすることに弱さがある。例えば、ほとんどの生徒がこれまで行事等でリーダー経験を務めてきている。しかしながら、フォロワー側に立場が変わったときに、リーダーの苦労や思いを慮って積極的に行動したり、協力して活動したりすることができない場面もある。

この実態を改善するために、「命」について考える教材を提示する。例えば、家族の命の選択の場面では、患者の立場、家族の立場などからそれぞれの思いや願いを踏まえた上で、判断をする必要がある。このように、生徒に相手の状況を慮る必然性が生じ、またその大切さを実感する教材を扱うことが、上述の実態を改善するための一助となる。第1時では、19歳で余命宣告を受け、25歳の若さで亡くなられた山下弘子さんの書籍を引用した教材を扱う。ここでは「命の大切さ」について考えることをねらいとする。第2時では、『命の選択』という「尊厳死」について書かれた教材である。生徒の中には、「尊厳死」という言葉を初めて聞く生徒もいるだろう。ここでは、延命措置を選択した家族の事例、尊厳死を認めた家族の事例など補足の資料を用意し、「尊厳死」について知ることをねらいとする。第3時では、『父の命』という教材を扱う。概要は以下の通りである。

元気であった父親が倒れた。優しい家族思いの父であった。私が小さい頃は、仕事の休みがあると、兄と私を釣りやキャンプに連れて行ってくれた。そんな父親のことが、兄も私も大好きであった。

久しぶりの一家団欒となったある日。その日の夕食後、リビングでくつろいでいると父親の呼吸の様子がおかしい。私が声をかけようと思ったとたん父親が倒れ込んだ。呼吸困難に襲われたらしく、床の上で苦しくもがいている。父親の診断結果は心不全であった。2年前の退職を機に、父親は回復の見込みがない場合の延命措置拒否の要望を記した事前指示書（リビングウィル）をいざという時のために用意してあった。しかしながら、医師は付き添ってきた母親と相談し、また私たち兄弟も納得した上で、気管内挿入・人工呼吸

器装着による循環管理，呼吸管理を開始した。

6日目には状態が安定したため抜管するが，夜間に呼吸困難が強く，せん妄状態となった。医師の今後の治療の説明からは，病院側が私たち家族に，延命治療の実施の有無の判断を求めてきたことが分かる。また，医療費に関する説明もあった。母親は，父親の延命を望むが，兄は父の意思を尊重したいという思い，母親の身体的・精神的負担を考慮して，尊厳死を認めることを主張した。母と兄の意見が真っ向から対立した。

医療の進歩により，数年前までは判断を求められなかったことにまで判断を求められるようになってきている。家族の命の選択を迫られる場面では，患者本人の思い，残された家族の思いといった相手の立場で状況を考えていく必然性が生じる。例えば，残された家族としては「家族だからこそ，できるだけ長生きをしてほしい」という願い，「家族だからこそ，苦しませたくない」という思いが選択の葛藤を生むことになる。「命は尊いもの」だからこそ，生徒は，どちらの判断が家族としてよりよい選択なのかを本気で考えるのである。

6 本教材における手だて

<手だてア>

「命」について様々な立場から，複数の教材を取り扱う構成とする。

道徳的価値の大切さなどを理解するという資質・能力を発揮するために行う。

第1時では，19歳で余命宣告を受け，25歳の若さで亡くなられた山下弘子さんの書籍を引用した教材を扱う。ここでは「命の大切さ」について考えることをねらいとする。山下さんが周りに感謝しながらも前向きに病と闘い抜いた記録，限られた人生を後悔なく生きようとした生き方を知り，生徒は「命」について考えることができる。「命は大切である」ことは観念的には理解している生徒ではあるが，この実話を基にした教材を通して，「命」はかけがえない尊いものであること再認識したり，命は自分だけのものではなくそれを思う家族や周りの人のものでもあるということ，だからこそ精一杯生きることが大切なのだということを考えたり，「命を大切にする」価値を生徒は理解したりする。

第2時では，『命の選択』という「尊厳死」について書かれた教材である。生徒の中には，「尊厳死」という言葉を初めて聞く生徒もいるだろう。ここでは，延命措置を選択した家族の事例，尊厳死を認めた家族の事例など補足の資料を用意し，「尊厳死」について知ることをねらいとする。この教材を通して，生徒は「命を大切にすること」が，患者本人の意思を尊重することなのか，残された家族の願いや希望を尊重することなのかを考える。生きることが「命を大切にすること」だと考えていた生徒も，患者を生かすことだけではないという価値の多面性に着目するのである。そして，以下の課題をもつ。

<課題>

「命を大切にすること」とは，どういうことなのだろうか。

第3時では，『父の命』という教材を扱う。主人公の「私」の立場で，すなわちその家族の一員として父の命の選択の場面に立たせて，延命措置か尊厳死かの判断を迫っていく。「命を大切にすること」の価値の実現とは，延命措置を依頼すること，尊厳死を認めること，どちらであるのだろうか。生徒は，その判断の根拠は多様であり，難しい判断であることを実感

しながらも、残された家族の精神的・肉体的な負担なども考慮して、家族の一員としての具体的な働きかけを考える。

このような教材の構成によって、生徒は「命を大切にすることの意味について、段階的にそして多面的に理解することができるのである。

<手だてイ>

主人公の「私」や「父」の立場で、命の選択を考える活動を組織する。

事象を多面的・多角的に分析するという資質・能力を発揮するために行う。

① 教材の事実を多面的・多角的に分析させるために、以下の発問を行う。

<発問> ※ ○→発問 ・→生徒の具体的な様相

- 母親はなぜ、父親の延命措置を希望しているのですか。
 - ・ まだまだ一緒に過ごしたいから。 ・ 孫の誕生を楽しみにしているから。
 - ・ 助かる可能性、生き延びる可能性が少しでもあるなら家族として長生きしてほしいから。
- 兄はなぜ、父親の尊厳死を認めることを希望しているのですか。
 - ・ 父親の意思を尊重したいから。 ・ 苦しむのは父親自身。苦しませたくないから。
 - ・ 積極的に治療しても助からないならば、痛みのないようにしてあげたいから。
 - ・ 母親の体調のことも心配しているから。
 - ・ 両親と近くに住んでいることで、経済的、精神的な負担も考えているかもしれないから。

これにより、教材の中の延命措置を希望する母の立場、尊厳死を認めることを希望する兄の立場から、多面的・多角的に事実をとらえることができ、生徒は同じ土台の基で検討することができる。

② 「私」の立場から、父親の延命治療の判断を問う発問をする。

<発問> ※ ○→発問 ・→生徒の具体的な様相

- あなたが「私」なら、父親の延命治療をすることに賛成ですか、反対ですか。

賛成（延命治療）

- ・ 回復の見込みは0ではない。
- ・ 人一人の大切な命を見捨てることはできない。
- ・ 父親は大切な家族の一人。
- ・ 大好きな家族には少しでも長生きしてほしい。
- ・ 父親（家族）が活着ていることが家族の励みになる。
- ・ 父は孫の誕生を楽しみにしている。
- ・ 長く生きられる可能性があるのに断ったら、罪悪感が残る。

反対（尊厳死）

- ・ 父親の意思を尊重したい。
- ・ 生きていてもそれは父親を苦しめることになる。
- ・ 父親の命も大切であるが、母親の体調のことも心配である。母の命も大事。

- ・ 経済的な負担も心配。

座席の隣同士のペアで判断とその根拠を交流した後、学級全体で意見の交流を行う。生徒は1つの判断における根拠が複数あることを知る。その後、生徒が大切にしている価値を明らかにするために、以下の追発問をする。

<追発問> ※ ○→発問 ・→生徒の具体的な様相

賛成側への追発問

- 回復の見込みは低いけれど、苦しみを与えてまでも父親に生きてほしいと思うのはなぜですか。
 - ・ 大切な家族であり、大好きな家族である。一人のかけがえのない存在であるから。
(命ある限り生きてもらうべき。かけがえのない命、命は有限、唯一無二の存在)
 - ・ 病気で苦しんでいても、孫や家族と過ごすことが父の楽しみであるから。
(生きることで孫を見るといふ喜びを感じさせるべき)
- 自分(残された家族)の生活を追い込むことになりませんか。
 - ・ 確かに見舞いなどで負担は増えると思うが、家族が活着していることが精神的な励みになることもある。(家族のことを優先すべき、命は何よりも大切にすべき)

反対側への追発問

- 大好きな父親ですが、少しでも長く生きてほしいとは思わないのですか。
 - 「生きる」ことよりも「苦しめないこと」が優先なのですか。
 - ・ 大切な家族であるからこそ、つらい思いをしている父親の姿は見たくない。
(大切な命だからこそ、苦しみを与えるべきではない)
- 父親の命よりも、自分達(母親)の負担のないことの方が大切なのですか。
 - ・ 母親のことが心配。母親も一人の大事な家族である。(家族の命も大切にすべき)

「かけがえのない命だからこそ、命を大切にすべき」「父に生きる喜びを与えるためにも、命を大切にすべき」「大切な命だからこそ、苦しめたくはない」「父親だけではなく、母親(家族)の命も大切にすべきだ」のように、「命を大切にする」という価値について多面性に気付くことができる。しかしながらこの教材の状況においては、リビングウィルを準備していた父親の意思を考へることなく、一方的な家族だけの願いや気持ちだけから判断することはできない。

③ 父親の立場から、教材の状況を把握させるために、次の発問を行う。

<発問> ※ ○→発問 ・→生徒の具体的な様相

- 本当に、「父親のためを思った選択」は延命治療を行うこと、尊厳死を認めることのことらだと思ひますか。

延命する

- ・ 見込みは低い、生きられる可能性がないわけではない。
- ・ 家族思いの父であるからこそ、家族のことを気遣って延命を断った気持ちもあると思う。
- ・ リビングウィルを書いた当時から、考へが変わっているかもしれない。
- ・ 孫の誕生を心待ちにしている。

尊厳死を認める

- ・ リビングウィルにサインしたということは、管などをつながれて痛い思いや苦しみを感しながら最期を迎えるのは嫌だと思ふから。
- ・ 生きていたとしても、それは父親を苦しめることになる。本人がかわいそう。
- ・ 介護や医療費のことが気になるかもしれない。それこそ生かされている側にとっては辛いことなのではないか。
- ・ 命に関わるサイン。悩んで決めたはずである。それを尊重することが父のため。

座席の隣同士のペアで判断とその根拠を交流した後、学級全体で意見の交流を行う。生徒は1つの判断における根拠が複数あることを知る。その後、生徒が大切にしている価値を明らかにするために、以下の追発問をする。

<追発問> ※ ○→発問 ・→生徒の具体的な様相

延命する側への追発問

- (家族のことを気遣って延命を断ったという意見に対して) そうであるならば、尊厳死を受け入れることが、「父親のことを思った選択」になるのではないですか。
 - ・ まだまだ生きたい気持ちがあるかもしれない。生きたい気持ちが少しでもあるのに残された家族のことを優先して、死を選択している可能性もあると考えると、それは父親のためにはならない。(命は何よりも大切にすべき)

尊厳死を認める側への追発問

- 「家族に負担をかけることは、患者にとって辛いこと」なのですか。
 - ・ 例えば、回復の見込みがなくずっと入院していたとしたら、見舞いに来てくれたり、身の回りの世話をしてくれたり負担をかけると思う。その姿を見ているのは父親にとって辛いことなのではないか。(苦しませずに残りの余生を生きてもらうべき)

生徒は、自分の命よりも、家族の命、生活を大切に思う父の家族を思う気持ちに気付くことができたり、家族に負担をかけることが辛いことであるということを経験者の立場から考えることができたりする。

<手だてウ>

主人公の「私」の立場で、父の命の選択の場面における家族への具体的な働きかけとその理由を考える活動を組織する。

事象を多面的・多角的に分析した結果から、家族の一員としてよりよい判断を考えるという資質・能力を発揮するために行う。

生徒は、家族である母、兄、「私」の立場からだけでなく、患者である父親の立場から状況を多面的・多角的に分析してきている。そこで次の発問をする。

<発問> ※ ○→発問 ・→生徒の具体的な様相

- あなたが「私」なら、父親の延命治療をすることに賛成ですか、反対ですか。賛成なら、兄をどのように説得しますか。また反対なら、母親をどのように説得しますか。

賛成

- ・ 回復する可能性は0ではないし、母さんもまだまだ一緒にいたいと言っている。延

命したことで苦しい思いを父さんがするかもしれない。でも、家族も懸命にサポートして、延命して少しでも生きられて良かったって思わせよう。母さんの負担は、休日に自分も母さんを支えて、サポートしていくよ。お金や介護よりも命が大切だよ。

(理由) やはり生きてほしい。それはかけがえのない命だから。でも延命したことで苦しむ父親がいることを兄は心配しているから、苦しみ以上の喜びを自分達で与えていきたいと思ったから。母のことは自分も精一杯サポートしていくことを伝える。

- ・ 家族のかけがえのない命。父さんには生きていく可能性が少しでもあるのであれば生きていてほしい。父は孫の誕生を心待ちにしていた。見られる可能性はもしかしたら低いかもしれないけれど、産まれた孫の顔を見たら喜んでくれる。だから少しでも長く生きてもらおう。自分には命を見捨てるという選択はできない。母さんや兄さんのサポートは自分もできる限りしていくよ。

(理由) かけがえのない命。孫の顔を見ることを心待ちにしている父の思いを兄に伝え、理解してもらいたい。そして、自分は父親の命を見捨てて後悔したくないから、それを正直に伝えたい。

尊厳死

- ・ 延命をして苦しい思いをするのは父さん自身だし、父さんの自分を思う気持ち、家族を思う気持ちを尊重しよう。それは父さんのことを大切に思うからこそできること。俺たちにとっては、母さんもかけがえのない家族の一員だ。だから、母さんのことも考えた決断なんだよ。

(理由) 苦しい思いをしている父親を見ることの辛さを、母親に分かってもらいたい。そして、命を軽視することではなく、父親の命を大切にすることでもある。母親が倒れたら家族が更に苦しい状況になるので、それも理解してもらいたいから。

これにより生徒は、事象を多面的・多角的に分析した結果から、家族の一員としてよりよく生きるための判断をするという資質・能力が発揮できるのである。

<手だてエ>

主人公の「私」の立場で、父の命の選択の場面における家族への具体的な働きかけとその理由を、仲間と交流する活動を組織する。

家族の一員としてよりよく生きるための判断を、多面的・多角的に考えていくという資質・能力を発揮するために行う。

多面的・多角的に考えいくためには、異なる見方との出会いが必要である。ここでは、意見の違いや共通性に注目させ、どこが違うのか、なぜ違うのかなど、自分の意見と仲間の意見を比較し関連付けながら、他者の意見への積極的なかわりを生み出すためにワークシートを工夫する。具体的には、仲間の考えを「①判断も同じで、理由も同じなのか」「②判断が同じで、理由が少し違うのか」「③判断が違うが、共通する理由はあるのか」「④判断が違うし、理由も全く違うのか」の4つグループのいずれかに分類させるように

する（図1，点線口囲み）。視点を与えることで，ただ仲間の意見を聞くのではなく，自分の考えと何が同じなのか，何が違うのかと，比較し関連付けながら，生徒は他者の意見へ積極的にかかわるようになる。

延命治療をすることに 賛成 or 反対		①判断同じ 理由も同じ	②判断同じ 理由が少し違 う	③判断違う 共通する理由が ある	④判断違う 理由が全く違 う
どのように					
どうしてそのように説得しようと思ったのか（理由）		<input type="radio"/> なるほどと思うだ考え（理由） <input type="radio"/> 異なる考え，納得しない考え（理由）			

【図1 バリュースートの具体】

<参考・引用文献>

- 文部科学省 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編
- 柴原弘志 新学習指導要領の展開 特別の教科 道徳編 明治図書 2017
- 松原惇子 「長生き地獄」 S B新書 2017
- 源田洋平 平成29年度 中学校教育研究発表会 要項・公開授業案
- 井口 浩 平成9年 道徳「生きることの意味」授業記録
- 山下弘子 雨上がりに咲く向日葵のように～「余命半年」宣告の先を生きるということ～ 宝島社 2018
- 日本看護協会 看護実践情報 事例紹介
https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/text/case/jirei_03.html
- はるな生活協同組合 高崎中央病院 自分らしく生きるために「人工呼吸について」

7 本時の詳細

(1) 前時までの学習を終えた生徒の実態

- 「尊厳死」について理解している。(第2時)
- 「延命措置」について、治療(措置)の具体を理解している。(第2時)
- 事例から読み取れる、「延命措置」「尊厳死」の光の部分と、影の部分をまとめている。

(第2時)

	光 (◎)	影 (△)
延命措置	・ずっと一緒にいて幸せ ・生きてくれているだけでうれしい	・介護 ・生かされている ・医療費 ・患者の痛み ・「これで良かったのか」という葛藤
尊厳死	・本人が望まないことを、本人の意思を尊重できる ・自然な形で死を迎えられる	・罪悪感が残る ・死自体は悲しい ・「これで良かったのか」という葛藤

- 「命はかけがえのないものであること」「生きることは家族のためでもあること」「生きることだけが、命を大切にすることとは言えない場合があること」など「命を大切にする」ことの価値について、観念的に理解している。(第1時, 第2時)
- 「父の命」の選択の場面では、延命治療に賛成、反対の立場どちらにも、「父の命を大切にする」考えが根本にあることを理解している。(第3時)

(2) 本時のねらい

「命の大切さ」の価値の理解の基、患者本人の立場、残された家族の立場などから、教材や資料の状況を多面的・多角的に分析し、家族の一員としてどのように行動するかを根拠を仲間と交流する活動を通して、「命を大切にする」ことの自身の考えを新たにすることができる。

(3) 評価規準

- 「命を大切にする」価値について、自分と仲間の意見の異同に気付き、それを基に大切にしたいことを確かにしたり、新たな気付きを得たりして、自己の「命」に対する価値観を再構成することができる。

(4) 本時の展開

学習活動・予想される生徒の反応	教師の支援・指導 ■ 評価の方法
<p>① 前時の学習の振り返り</p> <p>○ 前時の学習を、板書記録を基に振り返る。</p> <div data-bbox="331 427 663 869" data-label="Diagram"> </div> <p>② 父親の立場から、事実を把握する活動</p> <p>○ 父親はなぜ、リビングウィルを準備していたのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苦しい治療を続けて、命を延ばしてほしくないと思ったから。 ・ 人間らしく死にたいと思ったから。 ・ 家族に迷惑をかけたくないと思ったから。 ・ 自分のいざという時に、家族につらい選択をさせたくないと思ったから。 <p>③ 父親のことを考えた選択を判断する活動。</p> <p>○ 父の真意が分からない中で、「延命措置」「尊厳死」どちらが父のためを想った選択なのかを判断する。</p> <p>延命措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見込みは低いが生きられる可能性がないわけではない。 ・ 家族思いの父であるからこそ、家族のことを気遣って延命を断った気持ちもあると思う。 ・ リビングウィルを書いた当時から、考えが変わっているかもしれない。 ・ 孫の誕生を心待ちにしている。 	<p>○ 前時の板書記録を拡大したものを用意しておく。</p> <p>○ 父の延命措置に賛成する立場、反対する立場どちらも、考えの根本には「父の命を大切にす」気持ちがあることを再確認する。</p> <div data-bbox="815 600 1444 792" data-label="Text"> <p><質問> 家族である「私」の立場から「父の命」の判断を考えましたが、「父の命」を考える状況で、大切になってくるのは誰の考えですか。</p> </div> <p>○ 父の立場から、教材の状況を考える必要性に気付かせる。</p> <div data-bbox="815 891 1444 1084" data-label="Text"> <p><発問> 父親はどうしてリビングウィルにサインしていたのだと思いますか。考えられる理由をできるだけたくさん挙げなさい。</p> </div> <p>○ 「苦しみたくない、人間らしく亡くなりた」という父の気持ちと、「家族のことを想う父の存在」があることを押さえる。</p> <div data-bbox="815 1420 1444 1612" data-label="Text"> <p><発問> 本当に「父親のためを想った選択」は、延命措置を行うこと、尊厳死を認めることのどちらだと考えますか。</p> </div> <p>○ 隣同士のペアで交流したのちに、全体で意見を交流する。</p>

尊厳死

- ・ リビングウィルにサインしたということは、管などをつながれて痛い思いや苦しみを感じながら最期を迎えるのは嫌だと思っから。
- ・ 生きていたとしても、それは父親を苦しめることになる。本人がかわいそう。
- ・ 介護や医療費のことが気になるかもしれない。それこそ生かされている側にとっては辛いことなのではないか。
- ・ 命に関わるサイン。悩んで決めたはずである。それを尊重することが父のため。

④ 大切にする価値の明確化

○ それぞれの根拠において、大切にする価値を明確にする。

- ・ まだまだ生きていたい気持ちがあるかもしれない。生きていたい気持ちが少しでもあるのに残された家族のことを優先して、死を選んでいる可能性もあると考えると、それは父親のためにはならない。

- ・ 例えば、回復の見込みがなくずっと入院していたとしたら、見舞いに来てくれたり、身の回りの世話をしてくれたり負担をかけると思う。その姿を見ているのは父親にとって辛いことなのではないか。

- ・ 辛い思いをさせて生き続けてさせるのは、父親のためにはならない。

- ・ 孫の誕生は楽しみにしている。ただ、可能性としては延命しても孫が見られないかもしれない。ずっと苦しみを与えるのであれば、尊厳死を認めた方が父のため。

○ 価値を明確化するために、次の追発問をする。

<発問>延命措置

(家族のことを気遣って延命を断ったという意見に対して) そうであるならば、尊厳死を受け入れることが、「父親のためを思った選択」になるのではないですか。

<発問>尊厳死

- 「家族に負担をかけることは、患者にとって辛いこと」なのですか。家族に負担をかけることは生きることよりも優先されることなのですか。

- 孫の誕生を楽しみにしているのではないですか。

○ 家族を想う父の気持ちに着目すると、「家族のことを優先する父親だからこそ、生きていたい気持ちがあっても、その気持ちを抑えているのではないか。だから生きることが父を想うことだ。」「家族想いの父親だからこそ、家族に迷惑をかけることを嫌っているんだ。だから尊厳死を認めることが父を想った選択だ。」という2つの意見をおさえる。

⑤ 父の命の選択の判断を明らかにし、家族への具体的な働きかけとその理由を考える活動。

- 延命措置を選択するなら兄を、尊厳死を認めるなら母を、どのように説得するかのも具体とその理由を考える。

<発問>

あなたが「私」なら、父親の延命治療することに賛成ですか、反対ですか。賛成なら、兄をどのように説得しますか。また反対なら、母親をどのように説得しますか。

- 個人→4人グループでの交流

■ バリュースシート

<指示>

4人グループで考えを交流しなさい。その際、交流の方法を基に行いなさい。

【交流の方法】

- ① 一人が発表終わったら、①～④のどれにあてはまるか、名前を書く。
その際、相手の立場を理解できた、説得力があったと思ったら名前を○で囲む
- ② これを繰り返す。
- ③ 全員の発表が終わったら、一人ずつ
 - ・ 一番近い考えと、遠い考えは誰の意見が発表する。また、説得力があったのは誰の意見かを発表する。
 - ・ 感想発表

- 交流の方法を拡大した用紙を用いて説明する。

生徒A： 「回復する可能性は0ではないし、母さんもまだまだ一緒にいたいと言っている。延命したことで苦しい思いを父さんがするかもしれない。でも、家族も懸命にサポートして、延命して少しでも生きられて良かったって思わせよう。母さんの負担は、休日に自分も母さんを支えて、サポートしていくよ。」と説得します。理由は、やはり生きてほしい。それはかけがえのない命だから。でも延命したことで苦しむ父親がいることを兄は心配しているから、苦しみ以上の喜びを自分達で与えていきたいと思ったから。母のことは自分も精一杯サポートしていくことを伝えて兄には納得してもらおうと思います。

生徒B： 「家族のかけがえのない命。生きていく可能性があるのであれば生きていてほしい。父親は孫の誕生を心待ちにしていた。産まれた孫の顔をみたら喜ぶかも知れない。だから少しでも長く生きてもらおう。自分には命を見捨てるという選択はできない。母さんや兄さんのサポートは自分もできる限りしていくよ。」と説得します。理由は、かけがえのない命。孫の顔を見ることを心待ちにしている父の思いを兄に伝え、理解してもらいたい。そして、自分は父親の命を見捨てて後悔したくないから、それを正直に伝えたい。

生徒C： 私は2人とは違います。「延命をして苦しい思いをするのは父さん自身だし、父さんの自分を思う気持ち、家族を思う気持ちを尊重しよう。それは父さんのことを大切に思うからこそできること。俺たちにとっては、母さんもかけがえのない家族の一員だ。だから、母さんのことも考えた決断なんだよ。」と説得します。苦しい思いをしている父親を見ることの辛さを、母親に分かってもらいたい。そして、命を軽視することではなく、父親の命を大切にすることでもある。母親が倒れたら家族が更に苦しい状況になるので、それも理解してもらいたいから。

⑥ 全体で意見を共有する活動

- 延命措置に賛成、反対それぞれの立場から、説得する内容と、そのように説得する理由を発表してもらい、学級全体で共有する。

⑦ 授業を振り返る活動

- 「命を大切にする」ことについてまとめる活動

- ・ 命を大切にするとは、本人の気持ちを大事にすることだと思ったし、家族ならその気持ちを理解してあげることが大切だと思った。しかし、自分だけの命ではないことも分かった。自分の命ではあるが、それには家族を含めさまざまな人が関わっている。今回のように尊厳死の問題にしても、命について家族が真剣に考え悩んでいく。すぐには答えがでない問題だと思う。
- ・ 命を大切にするとは、生きることだけではなく死ぬ選択を認めることでもあるのだと思った。1日1日を大切に生きること命を大切にすることであるし、一方、病気などで苦しみたくないから死を選ぶことも命を大切にすることなのだと思う。ただし、そこには家族の存在があり、自分の命でもあるけれど、家族の命でもある。家族が亡くなったら悲しいし、自分が死んでも悲しませることになる。命を大切にするにおいては家族の存在が欠かせないと思った。
- ・ 命を大切にするとは、やはり生きることだと思った。家族として本人が生きるためにできる限りのことをしてあげたい。本人の気持ちも大切であるが、生きることが幸せだと感じさせられるように振舞うことが大切。しかし、お金や家族のおかれた状況によっては、とても判断が難しい。それはかけがえのない人の命だからこそその難しさだと思う。

- 説得の具体と、そのように説得する理由、なるほどなと思った考えや、納得しない考えを発表させる。

<発問>

「命を大切にする」とはどういうことですか。これまでの4時間の授業を基に、あなたの考えをまとめなさい。

- バリ्यूシート
- 何人かに発表させる。
- バリ्यूシートを回収する。